

2025年度 第1四半期決算

富士電機株式会社

2025年7月31日

© Fuji Electric Co., Ltd.

皆さん改めましてこんにちは、経営企画本部の三吉です。

本日は電機セクターの複数の会社で同じ時間帯に決算発表、説明会を行っておりますが、当社の説明会にご参加いただいた皆様方に変え厚く御礼申し上げます。

残念ながら参加できない方々もいらっしゃいますので、可能な限り決算内容について丁寧な説明を行い、質疑に参加できない方々にもご理解いただけるような時間にしていきたいと考えております。

本日も各事業責任者が出席しております。限られた時間ではございますが、皆さん方のご質問、ご意見等を賜ればありがたいと考えております。

■2025年度 第1四半期実績（対前年）

売上高
2,479億円
(+115億円)

営業損益
181億円
(+8億円)

営業利益率
7.3%
(-0.0%)

- ・ 売上高、営業損益はエネルギー、インダストリーが牽引して過去最高を更新

■2025年度 第2四半期（中間期）予想（対4/25予想）

売上高
5,340億円
(+150億円)

営業損益
405億円
(+65億円)

営業利益率
7.6%
(+1.0%)

純損益
235億円
(+45億円)

- ・ 1Q決算を踏まえて全セグメントで売上高、営業損益を上方修正

■2025年度 通期 予想

- ・ 上期の業績予想の修正を反映、下期は当初予想を据え置く
通期業績予想は国内外の市場環境、お客様の投資動向等を精査

第1四半期決算全体感としては、エネルギー、インダストリーの両部門が牽引して、売上高、営業損益を対前年で上回り、過去最高を更新しました。当社はかねてよりパワーエレクトロニクス会社であると投資家の皆様方にはご説明を申し上げてきました。

その形ができつつあるというのがこの第1四半期の決算だと考えております。それでは決算概要につきましてご説明させていただきます。

1. 2025年度 第1四半期実績	P. 4
2. 貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書	P.15
3. 2025年度 業績予想	P.18
4. 参考資料	P.21

1. 2025年度 第1四半期実績	P. 4
2. 貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書	P.15
3. 2025年度 業績予想	P.18
4. 参考資料	P.21

第1四半期 連結業績概要（対前年）

売上高、営業損益は過去最高を更新

	(億円)		
	2024年度	2025年度	増減
売上高	2,364	2,479	115
営業損益 (営業利益率)	173 (7.3%)	181 (7.3%)	8 (-0.0%)
経常損益	183	173	-9
特別損益	3	-2	-5
税金等調整前 四半期純損益	185	171	-14
法人税等	59	58	-1
非支配株主に帰属する 四半期純損益	12	4	-7
親会社株主に帰属する 四半期純損益 (純利益率)	115 (4.9%)	109 (4.4%)	-6 (-0.4%)

(期末レート：6月末)				(円)
US\$	161.07	144.81	-16.26	
EURO	172.33	169.66	-2.67	
RMB	22.04	20.19	-1.85	

(平均為替レート)				(円)
US\$	155.88	144.59	-11.29	
EURO	167.88	163.80	-4.08	
RMB	21.48	19.99	-1.49	

売上高増減				
海外子会社の為替換算差による減収	-45			
需要増	+161			
営業外損益増減				
金融収支	(-1	4	→	3)
為替差損益	(-18	11	→	-7)
その他	(2	-5	→	-3)
	(-18	10	→	-8)
特別損益増減				
投資有価証券売却損益	(-2	2	→	0)
その他	(-2	0	→	-2)
	(-5	3	→	-2)

第1四半期決算の業績です。

売上高と営業損益は過去最高を更新しました。

為替が前年に対し円高に振れている影響を打ち返し、増収増益です。売上高は115億円増の2479億円、海外の子会社の為替換算差が45億円マイナスで入っていますので実質では161億円増でした。

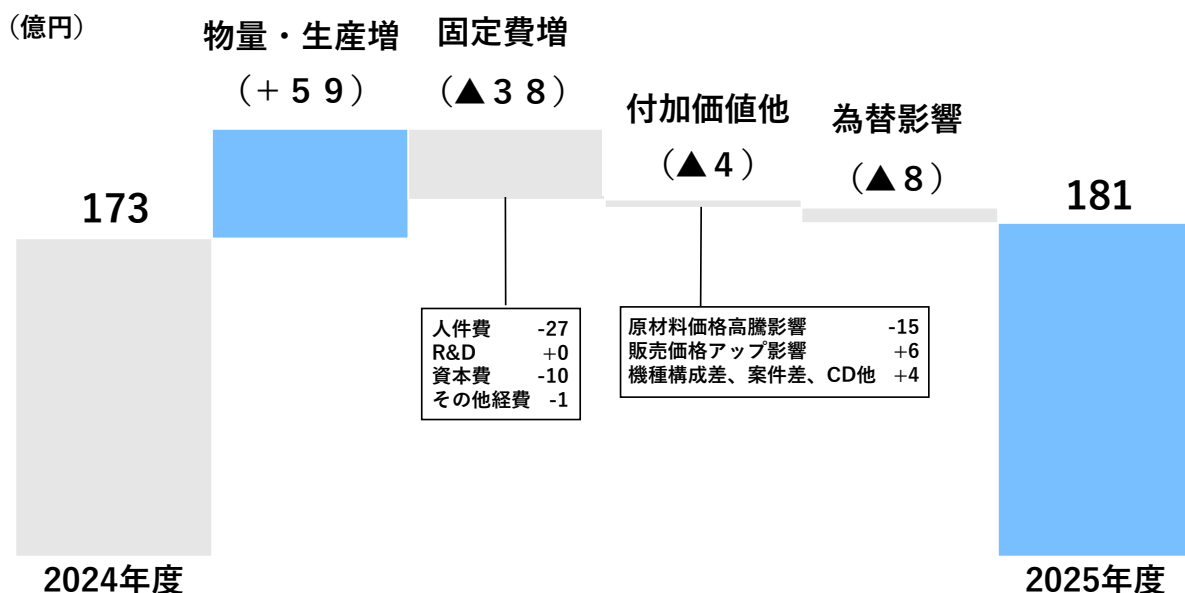
営業損益は8億円増の181億円、営業利益率は対前年と同レベルの7.3%でした。営業損益の分析は次ページでお話します。

営業外の損益増減は主として為替差損益が影響しています。経常損益は前年比で9億円マイナスの173億円、特別損益は固定資産の処分損等があったもののほぼ前年同レベルのマイナス2億でした。

純利益は、前年比マイナス6億円の109億円でした。

第1四半期 営業損益増減分析（対前年）

固定費増、原材料価格高騰による影響があるものの
物量・生産増、販売価格アップ、機種構成差、コストダウン等により増益



営業損益の分析です。

固定費や原材料価格の高騰影響などマイナス要因がありますが、物量・生産増などにより対前年 8 億円増の181億円となりました。

物量・生産増を特に牽引をしたのは、エネルギーの施設・電源システムとエネルギーマネジメント、半導体の産業、インダストリーのITソリューションです。一方で食品流通の自販機と店舗流通、半導体の電装はマイナスでした。

固定費は人件費が27億円増え、資本費は半導体のマレーシア工場や国内工場の増加を主因として10億円の増加となっています。

付加価値他として、原材料価格の高騰影響が15億円ありました。主に半導体、インダストリーの器具でそれぞれ1桁の半ばから後半億円のマイナス影響がありました。

第1四半期 セグメント別売上高・営業損益（対前年）

売上高はエネルギー、インダストリーが牽引
営業損益は半導体、食品流通の減益をエネルギー、インダストリーが挽回し増益

(億円)	2024年度			2025年度			増減				
	売上高	営業 損益	営業 利益率	売上高	営業 損益	営業 利益率	売上高	営業 損益	営業 利益率		
エネルギー	654	34	5.2%	738	85	11.5%	-3*	84	-0*	51	6.3%
インダストリー	804	19	2.3%	878	29	3.3%	-21*	73	-2*	10	0.9%
半導体	539	77	14.3%	548	49	8.9%	-22*	10	-6*	-28	-5.4%
食品流通	307	52	16.9%	263	31	11.9%		-44		-20	-5.0%
その他	138	8	5.7%	138	8	5.6%		-1		-0	-0.1%
消去または全社	-78	-17	-	-85	-20	-		-7		-3	-
合計	2,364	173	7.3%	2,479	181	7.3%	-45*	115	-8*	8	-0.0%

*為替影響

※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

セグメントごとの説明です。

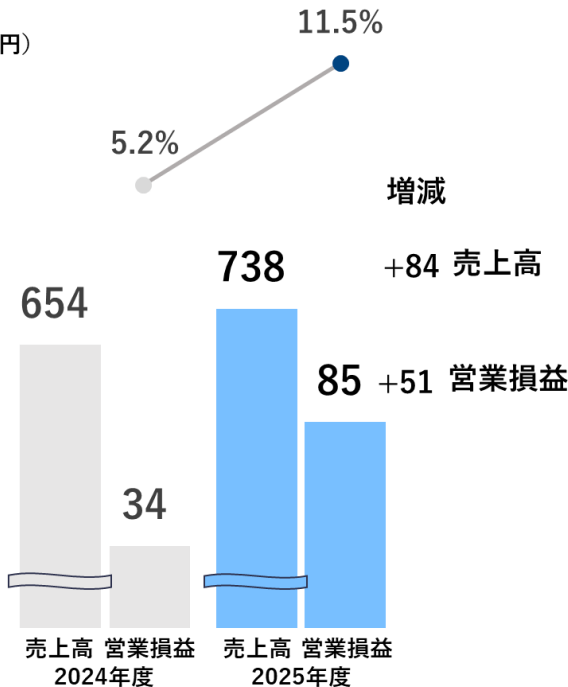
売上高はエネルギーとインダストリー部門が牽引しました。

営業損益は半導体、食品流通の減益をエネルギーとインダストリーで打ち返しています。特にエネルギーが前年比で大きく増収増益となっており、営業利益率も11.5%まで引き上がっています。

第1四半期 セグメント別概況（対前年）

■エネルギー

(億円)



※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

発電プラント	減収減益（1%減収） 原子力関連の大口案件が増加したものの、再生可能エネルギーの大口案件の影響等により、売上高、営業損益ともに前年同期と同水準となりました。
エネルギー マネジメント	増収増益（23%増収） 蓄電システム案件の増加や、電力及び産業向け変電機器の大口案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
施設・電源 システム	増収増益（18%増収） データセンター向け需要の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
設備工事	増収増益（3%増収） 大口案件の増加や、案件差及び原価低減の推進等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

セグメント別のポイントをご説明いたします。
初めにエネルギー部門です。

売上高は84億円増の738億円、営業損益が51億円増の85億円でした。
営業利益率は11.5%となりました。

エネルギーマネジメント、施設・電源システム、設備工事の3部門が増収増益となり業績を牽引しました。発電プラントは1%の減収です。
投資家の皆様の関心が高く、我々としても期待しているエネルギーマネジメント、施設・電源システムが特に伸長しました。

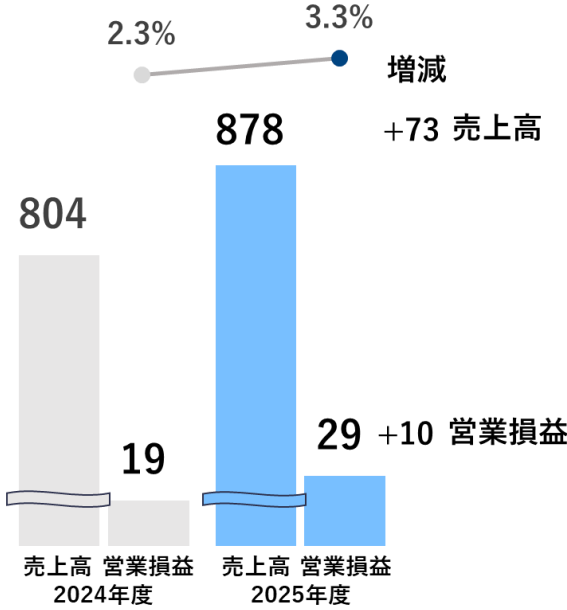
エネルギーマネジメントは、蓄電システムや系統の安定化に関連する案件の増加、変電システムの増加、これらが貢献し、前年比で大きく増収増益となりました。

また、施設・電源システムはデータセンター向けの需要増に伴い前年比で増収増益となりました。

第1四半期 セグメント別概況（対前年）

■ インダストリー

（億円）



※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

F A コンポーネント	減収増益（2%減収） 低圧インバータは前年同期並みで推移したものの、為替影響により売上高は前年同期を下回りました。一方で、営業損益は前年同期を上回りました。
オート メーション	増収減益（11%増収） 駆動制御システム、計測制御システムの鉄鋼分野向け需要の増加等により売上高は前年同期を上回りましたが、大口案件の費用増により、営業損益は前年同期を下回りました。
社会 ソリューション	増収増益（10%増収） 輸送システムの需要増により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
器具	増収減益（7%増収） 機械セットメカ向け需要の緩やかな回復により、売上高は前年同期を上回りましたが、原材料価格の高騰影響により、営業損益は前年同期を下回りました。
I T ソリューション	増収増益（30%増収） 文教分野の大口案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

インダストリーです。

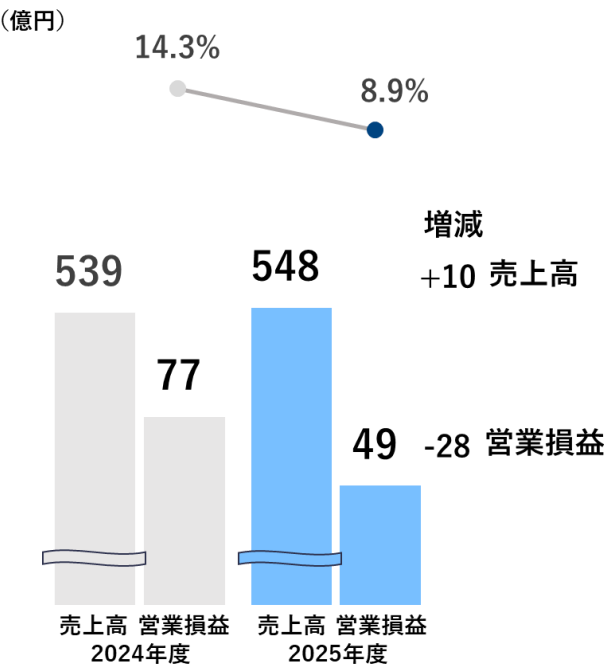
売上高が73億円増の878億円、営業損益は10億円増の29億円でした。営業利益率は3.3%と、第4四半期偏重の業績となりやすい事業の特性もありますが、前年比で1%改善しています。

サブセグメントの内訳としてはFAコンポーネントを除く四つのサブセグメントで増収となりました。

オートメーションは需要増に伴い増収でしたが、残念ながら大口案件の費用計上により減益。ITソリューションは増収増益。文教分野向けの大口案件の増加に伴い売上を大きく伸ばし30%の増収、営業損益も相応の利益を計上しています。

第1四半期 セグメント別概況（対前年）

■半導体



増収減益（2%増収）

売上高は、産業分野では、為替影響があったものの、海外における再生可能エネルギー向けを中心とした需要増により、前年同期を上回りました。電装分野では、電動車（xEV）向けパワー半導体の国内向けの需要が増加したものの、海外向けの需要の減少と為替影響により、前年同期を下回りました。

営業損益は、産業分野における売上高の増加があったものの、生産能力増強等に係る費用の増加、原材料価格の高騰、為替影響等により、前年同期を下回りました。

(億円)			
売上高	2024年度	2025年度	増減
産業	264	278	14
電装	275	270	-4
設備投資	280	90	-190
資本費※	89	94	5

※資本費は、決算短信に記載の減価償却費および支払いリース料の総額

半導体部門です。

売上高が10億円増の548億円、営業損益はマイナス28億円の49億円、営業利益率は8.9%でした。半導体は他の事業に比べ相対的に為替の影響を受けており、7ページ目の資料に為替影響を記載をしておりますが売上高で22億円、営業損益で6億円の為替影響が含まれています。

売上高は

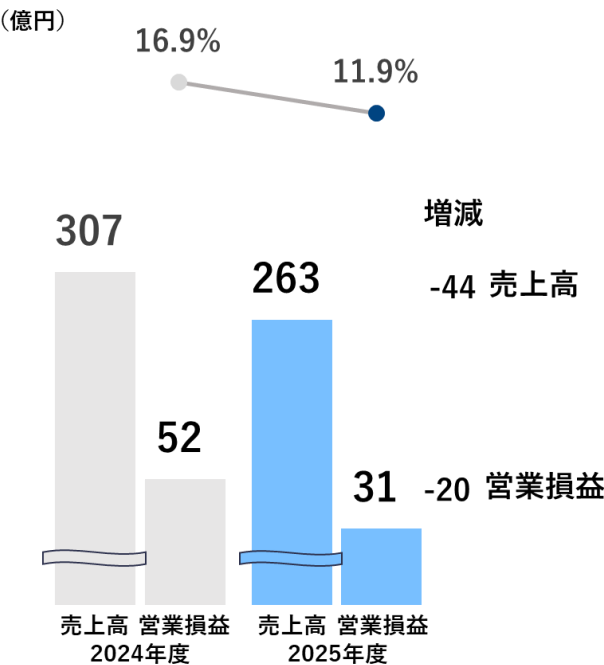
産業分野は、海外、特に中国における再生可能エネルギー向けの需要増を主因として前年同期を上回りました。

電装分野は、国内向け需要は増加しましたが、海外向けの需要減、さらには為替の影響もあり前年同期を下回りました。

営業損益は

産業分野における売上増がありましたが、生産能力の増強等に関わる費用増、原材料価格の高騰影響、為替影響などにより前年同期を下回りました。

■ 食品流通



自販機	<u>減収減益（14%減収）</u> 国内自販機の需要減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
店舗流通	<u>減収減益（15%減収）</u> コンビニエンスストアの改装増加に伴う店舗設備機器の需要増があったものの、前年同期の改刷対応特需の反動により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

食品流通です。

売上高はマイナス44億円の263億円、営業損益はマイナス20億円の31億円、営業利益率は11.9%となりました。

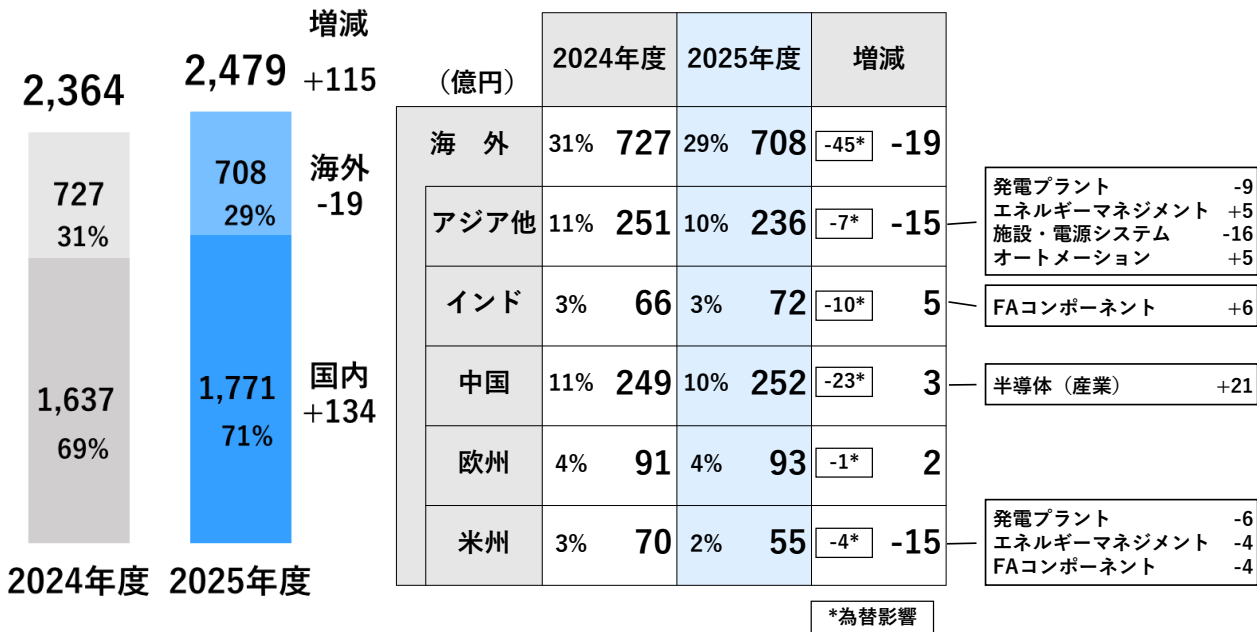
自販機は国内の自販機の需要減少により減収減益、売上高は14%の減収でした。

店舗流通は15%の減収でした。コンビニエンスストア向けの改装需要は堅調に推移しましたが、前年同期は改刷対応に伴う通貨機器関連の特需として売上、営業損益を大きく引き上げており、その影響が剥落したことでこのような結果になっています。

前年度の改刷特需の影響を除くと店舗流通は増収増益を果たしており、食品流通事業は着実に地力をつけてきていると認識しています。

第1四半期 国内／海外・地域別売上高（対前年）

海外売上高は為替影響により減収
中国は半導体（産業）の再エネ向けで増収



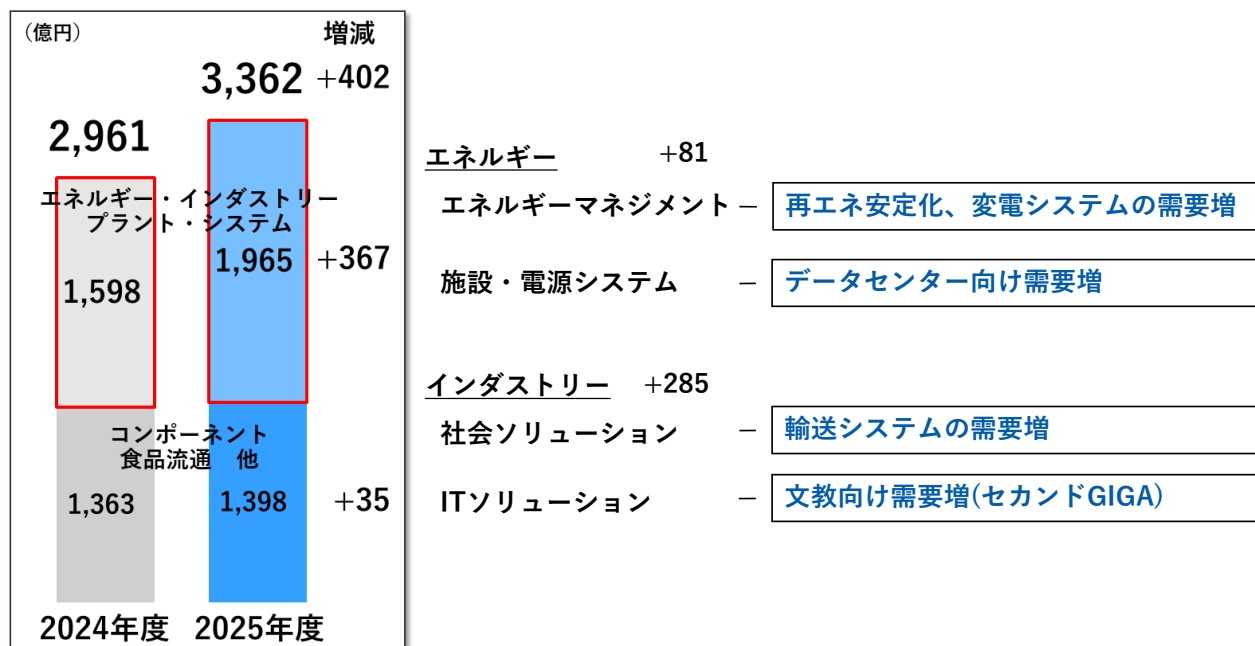
※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

地域別の売上、特に海外の売上の状況についてです。

海外の売上は、マイナス19億円の708億円、構成比としては29%となりました。為替影響を45億円含んでおり、実質26億円の増収です。

地域別の状況です。
最も売上規模が大きいのがアジア、中国のエリアです。
アジアは発電プラント、施設・電源システム等の案件の影響で対前年減収でした。一方で中国は、半導体の産業分野で再生可能エネルギー向けが堅調だったことなどにより増収となっています。

エネルギー、インダストリーのプラント・システムが増加 エネルギーマネジメント、施設・電源システムは好調継続



※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

© Fuji Electric Co., Ltd. 13

受注の状況です。

第1四半期の受注高は3,362億円、前年に対し402億円の増加となりました。

エネルギー・インダストリーのプラントシステムが対前年367億円増とけん引しています。

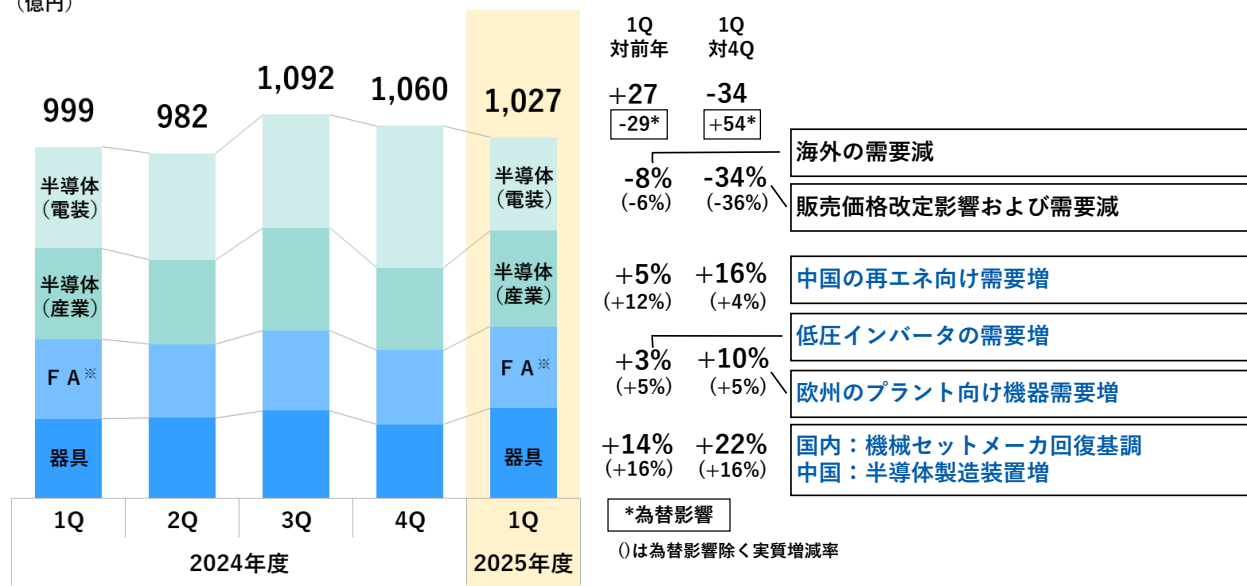
エネルギーは81億円の増、売上の増と同様にエネルギーマネジメント、施設・電源システムがけん引しています。エネルギーの中で発電プラントは約50億円受注を落としていますので、エネルギーマネジメントと施設・電源システムなど、その他の事業で約130億円引き上げていることとなります。

インダストリーはITソリューションの文教向け大口案件の影響が大きく、加えて社会ソリューションの輸送分野でも米州向けに受注が増え、285億円の増加となっています。

第1四半期 受注高（主要コンポーネント）

前年同期に対して受注増も回復は緩やか

（億円）



※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています
※FAの対象機種は、低圧インバータ、回転機、計測機器

コンポーネントの受注です。

前年同期が999億円、今年度が1,027億円と、マイナス29億円の為替影響がありつつも受注増。市況は緩やかな回復傾向にあると見ております。

半導体の電装は海外の需要減影響を受けてQonQ、YoYともにマイナス。産業は、中国の再エネ向けが貢献しプラスとなっています。

FAや器具の市況は回復基調と言いたい所ですが、先ほども申し上げた通り、第1四半期ではまだそこまで力強い回復基調は見られていません。

FAは欧州のプラント向けに計測機器関連の需要が増えました。また器具に関しては、国内の機械セットメーカー向けの一部に回復基調が見られますが、もう少し注視する必要があると考えています。

1. 2025年度 第1四半期実績	P. 4
2. 貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書	P.15
3. 2025年度 業績予想	P.18
4. 参考資料	P.21

それでは続きましてバランスシートとキャッシュフローの状況です。

第1四半期末 貸借対照表（対前年度末）

総資産は、売上債権の減少を主因に減少

				(億円)			
資産の部				負債・純資産の部			
	25/3/31	25/6/30	増減		25/3/31	25/6/30	増減
現金及び預金	635	597	-38	買入債務	1,928	1,601	-327
売上債権	4,178	3,562	-616	有利子負債	1,049	1,269	220
棚卸資産	2,387	2,523	137	その他負債	2,838	2,525	-313
その他	467	538	72	負債 合計	5,815	5,395	-420
流動資産 計	7,667	7,221	-445	資本金	476	476	-
有形固定資産	3,471	3,432	-39	資本剰余金	646	646	0
無形固定資産	303	313	10	利益剰余金	4,939	4,923	-16
投資その他の資産	1,680	1,753	72	自己株式	-43	-43	-0
固定資産 計	5,454	5,498	43	株主資本	6,018	6,001	-16
繰延資産	1	1	-0	その他の包括利益累計額	900	947	47
資産 合計	13,122	12,720	-402	非支配株主持分	389	377	-12
自己資本比率	52.7%	54.6%	1.9%	純資産 合計	7,307	7,325	18
ネット有利子負債※1	422	679	257	負債・純資産 合計	13,122	12,720	-402
ネットD/Eレシオ※2	0.1倍	0.1倍	0.0倍				

※1 ネット有利子負債：有利子負債-現金及び現金同等物
 ※2 ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

総資産は売上債権の減少を主因に402億円減少の1兆2,720億円です。

資産の中には棚卸資産が137億円増えていますが、これはプラント品を中心に増えています。負債は、法人税あるいは賞与の支払い等によりその他の負債が313億円のマイナス、併せて有利子負債としてコマーシャルペーパーで270億円調達しています。

ネット有利子負債は257億円増の679億円、ネットD/Eレシオが0.1倍とほぼ計画通り進捗しています。

第1四半期 キャッシュ・フロー計算書（対前年）

	2024年度	2025年度	増減要因
(億円)			
I 営業活動によるキャッシュフロー	662	111	前受金回収の減少、買入債務の支払増加等を主因に対前年で悪化
II 投資活動によるキャッシュフロー	-270	-217	設備投資は半導体向けを中心に継続も設備投資の減少を主因に好転
I + II フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	392	-106	
III 財務活動によるキャッシュフロー	-432	82	コマーシャルペーパーにより資金調達
IV 現金及び現金同等物の期末残高	653	589	

キャッシュフローです。

営業活動によるキャッシュフローは、前受金回収の減少、あるいは買入債務の支払い増を主因に前年比で悪化。

投資活動によるキャッシュフローは、半導体を中心に設備投資は継続しているものの、タイミングをコントロールしており好転しています。

財務活動によるキャッシュフローはコマーシャルペーパーによる資金調達で好転しています。

1. 2025年度 第1四半期実績	P. 4
2. 貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書	P.15
3. 2025年度 業績予想	P.18
4. 参考資料	P.21

第2四半期（中間期） 連結業績予想（対4/25予想）

1Q決算を踏まえて売上高、営業損益、経常損益、純損益を上方修正

（億円）	4/25予想	7/31予想	増減	第2四半期の前提為替レート			
売上高	5,190	5,340	150		US\$	EURO	RMB
営業損益 （営業利益率）	340 (6.6%)	405 (7.6%)	65 (1.0%)	4/25予想	¥140.00 変更なし	¥154.00 変更なし	¥19.80 変更なし
経常損益	310	370	60	7/31予想			
親会社株主に帰属する 中間純損益 （純利益率）	190 (3.7%)	235 (4.4%)	45 (0.7%)	為替感応度※ （億円）	-0.5	0.3	1.0

※営業損益ベース（2025年7月-9月の3ヶ月影響）
US\$、EUROは1円円安変動影響、RMBは1%円安変動影響

	4/25予想		7/31予想		増減		増減要因
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益	
エネルギー	1,630	150	1,660	175	30	25	・施設・電源システムのデータセンター向け需要増加 ・設備工事の電気設備工事需要増加
インダストリー	1,915	85	2,000	105	85	20	・ITソリューションのセカンドGIGA関連需要増加等
半導体	1,030	75	1,050	90	20	15	・産業分野の中国再エネ向け需要増加
食品流通	500	50	520	55	20	5	・店舗流通のコンビニ改装需要増加
その他	265	15	265	15	0	0	
消去または全社	-150	-35	-155	-35	-5	0	
合計	5,190	340	5,340	405	150	65	

第1四半期の決算内容を踏まえ、中間期の連結業績予想を上方修正します。売上高は150億円増の5,340億円、営業損益は65億円増の405億円、純利益は45億円増の235億円という形でそれぞれ引き上げています。

セグメント別には下の表の通りです。

通期 連結業績予想（対4/25予想）

上期の業績予想の修正を反映、下期は当初予想を据え置く
通期業績予想は国内外の市場環境、お客様の投資動向等を精査

(億円)	4/25予想	7/31予想	増減
売上高	11,400	11,550	150
営業損益 (営業利益率)	1,180 (10.4%)	1,245 (10.8%)	65 (0.4%)
経常損益	1,165	1,225	60
親会社株主に帰属する 当期純損益 (純利益率)	810 (7.1%)	855 (7.4%)	45 (0.3%)

第2～4四半期の前提為替レート

	US\$	EURO	RMB
4/25予想	¥140.00	¥154.00	¥19.80
7/31予想	変更なし	変更なし	変更なし

為替感応度※ (億円)	-0.9	0.9	2.6
----------------	------	-----	-----

※営業損益ベース（2025年7月-2026年3月の9ヶ月影響）
US\$、EUROは1円円安変動影響、RMBは1%円安変動影響

	4/25予想		7/31予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,745	465	3,775	490	30	25
インダストリー	4,135	405	4,220	425	85	20
半導体	2,230	215	2,250	230	20	15
食品流通	1,050	120	1,070	125	20	5
その他	580	40	580	40	0	0
消去または全社	-340	-65	-345	-65	-5	0
合計	11,400	1,180	11,550	1,245	150	65

通期の業績予想です。

通期の業績予想には中間期の業績予想を反映していますが、一方で下期はまだ精査が必要だと考え据え置いています。

米国との相互関税について15%と、ようやく方向性が見えてきました。
今後この内容がどうなるか、もう少し市場環境、あるいはお客様の投資の
タイミング等々を精査し、必要に応じ改めて年間の業績予想を修正をして
いきたいと考えています。

1. 2025年度 第1四半期実績	P. 4
2. 貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書	P.15
3. 2025年度 業績予想	P.18
4. 参考資料	P.21

なお、巻末に参考資料として、連結業績予想の前回発表あるいは前年度と比較した表を付しておりますのでご参考にしていただければと思います。
私からの説明は以上です。

参考：第2四半期（中間期） 連結業績予想（対前年）

エネルギー、インダストリーが牽引し売上高、営業損益は過去最高更新

(億円)	2024年度 実績	2025年度 7/31予想	増減	
売上高	4,974	5,340	-48*	366
営業損益 (営業利益率)	403 (8.1%)	405 (7.6%)	-15*	2 (-0.5%)
経常損益	389	370		-19
親会社株主に帰属する 中間純損益 (純利益率)	355 (7.1%)	235 (4.4%)		-120 (-2.7%)

	2024年度 実績		2025年度 7/31予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	1,440	100	1,660	175	220	75
インダストリー	1,754	81	2,000	105	246	24
半導体	1,080	151	1,050	90	-30	-61
食品流通	583	87	520	55	-63	-32
その他	274	17	265	15	-9	-2
消去または全社	-158	-32	-155	-35	3	-3
合計	4,974	403	5,340	405	366	2

※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

*為替影響

参考：通期 連結業績予想（対前年）

(億円)	2024年度 実績	2025年度 7/31予想	増減	
売上高	11,234	11,550	-135*	316
営業損益 (営業利益率)	1,176 (10.5%)	1,245 (10.8%)	-34*	69 (0.3%)
経常損益	1,188	1,225		37
親会社株主に帰属する 当期純損益 (純利益率)	922 (8.2%)	855 (7.4%)		-67 (-0.8%)

	2024年度 実績		2025年度 7/31予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,543	363	3,775	490	232	127
インダストリー	4,000	340	4,220	425	220	85
半導体	2,368	371	2,250	230	-118	-141
食品流通	1,115	139	1,070	125	-45	-14
その他	561	38	580	40	19	2
消去または全社	-354	-73	-345	-65	9	8
合計	11,234	1,176	11,550	1,245	316	69

※2024年度実績は、2025年度の事業組替の数値を反映しています

*為替影響

1. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。